

授業科目名	文化産業論	担当教員 李 知映				
必修の区分	選択					
単位数	2 単位					
授業の方法	講義					
開講年次	3年 第3クオーター					
講義内容	<p>「文化」は、経済とは相容れないもの、と考えられがちである。しかし、歴史的に見ても、文化は常に経済的なパトロンを必要としてきた。近年では、経済活動に対する芸術文化の貢献への関心も高まるなど、文化と経済との関係には多様な側面が見られる。文化産業における文化概念は、狭義の芸術ジャンルのみならず、広告、建築、デザイン、各種メディア、ゲーム、ソフトウェアなどを包括する。本講義においては、芸術文化と産業・経済の複雑な関係について、文化産業論以外に、文化政策学や文化資源学等も利用し、その歴史や理論等を多角的にみていきたい。</p>					
到達目標	<p>① 芸術文化と経済・産業の複雑な関係について、その歴史や理論を踏まえて多角的に理解する。</p> <p>② 日本社会、とりわけ地域経済の持続可能な発展のために、文化産業論の観点から、芸術の創造・発信、流通・雇用・消費（マーケット）、そしてコミュニティ形成（再生）の諸問題について、その全体像を具体的にイメージし、新たな価値創造の提案ができるようになる。</p>					
授業計画	<p>① イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の授業計画と進め方、成績評価方法などについて説明 <p>文化とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「文化」概念の成立と変容を把握し、文化産業論が扱う領域を概観 <p>② 文化経済学から考える文化産業</p> <p>③ 文化政策学から考える文化産業</p> <p>④ 文化芸術と経済</p> <p>⑤ 資本としての文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化産業論や文化資本論、知識産業論、クリエイティブ産業論などの考え方を把握し、資本主義経済と文化の関係を考察 <p>⑥ 文化産業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドルノとホルクハイマーなどの議論から考察 <p>⑦ 文化産業と地域社会</p> <p>⑧ 文化産業と創造都市</p> <p>⑨ 創造産業、クール・ジャパン</p> <p>⑩ 現代文化としての観光・地域社会／小テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の消費文化としての観光を、J. Urry「観光のまなざし」や S. Zukin 「Authenticity」などの議論から考察する 					

	⑪ グループワークの研究調査に基づく報告会（1） ⑫ グループワークの研究調査に基づく報告会（2）
事前・事後 学習	参考文献、ノート等を読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。
テキスト	特になし。
参考文献	河島伸子 『コンテンツ産業論－文化創造の経済・法・マネジメント－』（ミネルヴァ書房、2009） 河島伸子、生稻史彦編著 『変貌する日本のコンテンツ産業－創造性と多様性の模索－』（ミネルヴァ書房、2013）など。 必要に応じて授業中に紹介する。授業のなかで関連資料を配布することもある。
成績評価 の基 準	成績はプレゼンテーション（1回：30%）と小テスト（1回：20%）や授業への参加度・積極性等（50%）による総合評価。
履修上の注意 履修要件	特になし。
実践的教育	該当しない。
備考欄	グループワーク・発表の場合、履修者によって個人ワーク・発表になる可能性ある